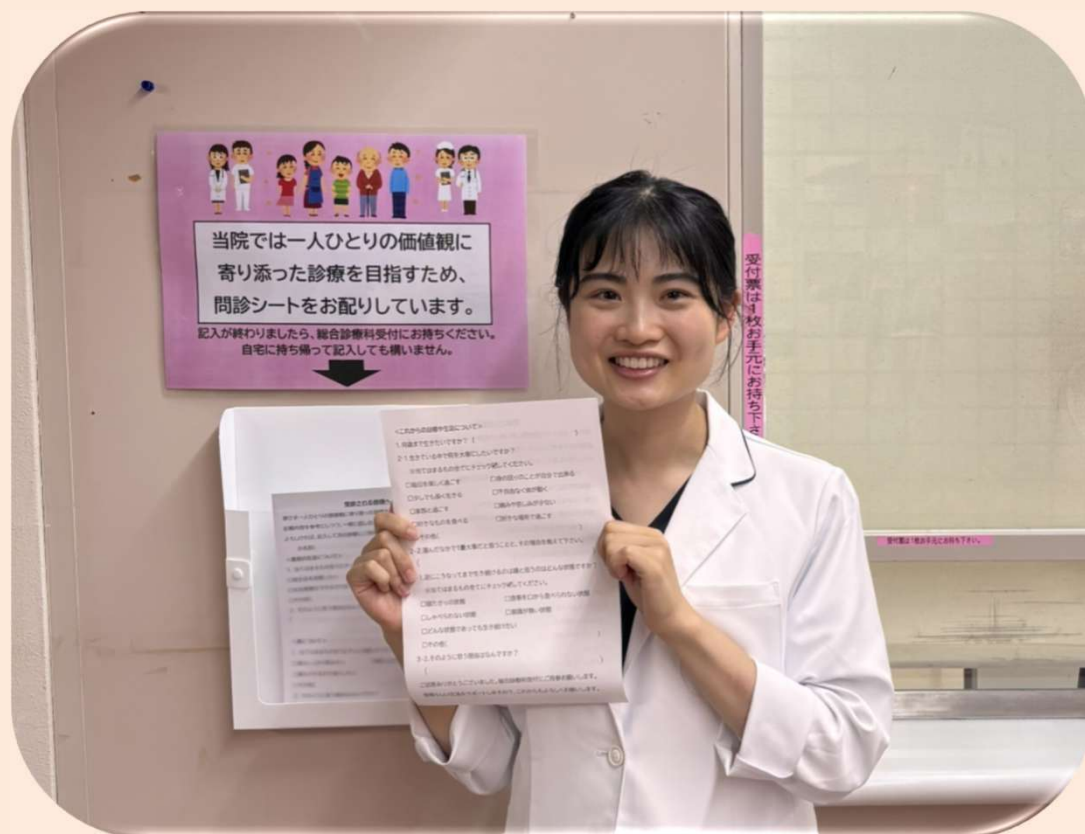


養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

名前：西森（陳）美仁子

勤務先：公立浜坂病院

診療科：総合診療科

卒後：9年目

経歴：

初期研修 ①②製鉄記念広畑病院

前期派遣 ③淡路医療センター救急科、④製鉄記念広畑病院救急科、
⑤はりま姫路総合医療センター救急科

後期研修 ⑥神戸大学救急科、⑦神戸医療センター中央市民病院救急科

後期派遣 ⑧淡路医療センター救急科、⑨公立浜坂病院総合診療科

【公立浜坂病院について】

40床ほどの病院です。2026年度は総合診療科6名、整形外科1名で診療しています。私が担当しているのは、外来約80名、訪問診療約5名、病棟5～8名程度です。救急外来、ワクチン外来、健診、隣接する老健施設の嘱託医も担当します。内科疾患はもちろん、救急では小外科にも対応し、整形疾患のリハビリ入院や看取りも行っています。困ったときには、主に鳥取市内の病院へ転院をお願いしています。当直は月4回程度で、当直明けも勤務ですが、深夜に呼ばれることはほとんどありません。院外活動として、年1回程度、住民向けの健康講座も担当しています。先日、敷地内に小児科クリニックが開業予定し、にぎやかになりそうです。

【新温泉町について】

私はまだ冬を経験していませんが、春から夏にかけてはとても過ごしやすいです。季節の花がいたるところでたわわに咲き、近くでホテルやアマガエルを見つけながら、四季を楽しんでいます。人もモノも少ないですが、きれいな空気とおいしい海鮮、そしてやはり温泉が魅力です。車で3分の場所に、源泉かけ流しの露天風呂があり、500円で入ることができます。スーパーもありますし、鳥取市街地までは車で35分（あと数年で高速道路が完成すれば20分程度まで短縮予定）で、生活に困ることはありません。困りごとは、虫が多いことと熊が出没するため、散歩には注意が必要なことです。



【なぜ救急医が9年目に総合診療科へ？】

「救急医療にかかりつけ医の視点が必要だ」と考えたからです。救急現場では、しばしばつらい現実直面します。それは患者を助けられない現実だけではなく、救命という名のもとに本人が望んでいるのか分からないまま、患者に延命処置を行う現実です。患者の命を救ったとしても、患者を救ったとは言えないように感じています。最近では人生会議（ACP）が広く知られるようになってきましたが、救急車で運ばれる前に十分な話し合いができている方は、まだほんの一握りです。救急に来てからでは、もう遅い。元気なうちから、かかりつけ医が本人や家族と話し合う必要があると思っています。しかし、本当にそれができるのだろうか。そんな疑問から、まずは自分自身がかかりつけ医となり、実践してみたいと思うようになりました。

【私なりに地域で今やっていること】

定期外来に来られる方と人生会議を行うために、アンケート形式の問診シートを作成し、配布しています。院内の看護師とも協力し、総合診療科の受付にも置いてもらえるようになりました。かかりつけ医として患者さんの価値観を把握し、いざというときにその思いを救急現場へ届ける。そして救急医として、患者さんの価値観に合った救急診療が行える仕組みをつくる。私自身を含め誰もが安心して最期まで自分らしい人生を送れる地域を目指して、これからも地域で学び、活動していきたいと思っています。



地元の海鮮

【 義 務 年 限 9 年 間 の 魅 力 】

専攻医の間に結婚し、毎年転勤する私に合わせて在宅ワークに切り替えてくれた夫とともに、兵庫県各地を巡りました。毎年のように引っ越しをするのは確かに大変ですが、新しい刺激が得られ、面倒さよりも楽しさの方が勝っています。都会に住む良さとはまた違う、田舎ならではの住み心地の良さ。深呼吸をすると草花のよい香りがして、空は広く、夜は静かです。そこで営まれる店を巡り、祭りに参加し、たくさんの人々と出会いました。研修医の頃は勤務希望が通らず、泣いた日もありました。しかし、どこだって住めば都ですし、その土地で学べることや、やりたいことを見つければいい。

「むしろ、義務年限がある人生の方が楽しい」私はそう思っています。



西日本最大のしだれ桜🌸